

オーストリアのウィーン市を「達目洞(だちぼくぼら)自然の会」の親子3家族9人が、2010年8月16日から23日まで訪問しました。ウィーン市の自然環境の保全や水道施設、環境教育等について学ぶとともに、環境に関するワークショップや日本文化の紹介等を通して交流をしました。今回の訪問は、2009年7月に岐阜市で行われた「第13回日本・オーストリア21世紀委員会」のフォローアップ事業の一つとして行われました。



達目洞自然の会は、スイレン科の植物で絶滅が心配されるヒメコウホネが自生する、岐阜市の金華山東山麓にある達目洞の自然環境を保全している団体です。ヒメコウホネの保全、湿地環境の再生・復元、外来植物の除去、自然観察会、休耕田でのお米作りなどの活動を行っています。

ウィーン市の西から北にかけては、アルプスから続く「ウィーンの森」があります。森の学校では森林局の方にお世話になり、そこに棲む動物や植物のことを学びました。安全に森の中を散策できるコースがあったり、子供達が環境学習をした後バーベキューを楽しんだりする場所があったりして、森を大切に守り活用していることがわかりました。ユネスコ生物圏保護区の森の中では、イノシシの家族に出会い、達目洞と同じように電気柵が設置されていました。



ウィーン市では水飲み場やホテルの蛇口からでも、おいしい水を飲むことができます。水道局の方にお世話になり、19世紀後半のフランツ・ヨーゼフ皇帝の時代に作られた上水道の貯水池を見学しました。貯水池の建物の中は、アーチの梁で作られていてとても美しく、水をたたえる様子は神秘的でもありました。



市の西80キロほどにあるラックス山あたりからの湧き水が、トンネルでウィーン市につながっています。

在オーストリア日本大使館 田中映男前大使からは、水供給の歴史や公衆衛生の意義について、丁寧に説明していただきました。ウィーン市のみなさんが、水道施設を作られたフランツ・ヨーゼフ皇帝に、たいへん感謝していることがよくわかりました。



ラックス山には麓から山頂付近までケーブルカーで登ることが出来ます。雄大な景色を楽しみながら、子供達はカードを使って生き物の生態を学びました。また、200年ほど前、製鉄用に山の木がほとんど切られ、今は森林の再生に努力されている話を聞きました。



岐阜市と姉妹都市のマイドリング区では、環境ワークショップを行い、ネメック区議会議員・環境委員長からは区の環境の取り組みについて話をしていただき、達目洞自然の会からは活動の様子を紹介しました。ワークショップ終了後は、区主催の昼食会が開催され、ヴォタワ区長、区役所職員、ウィーン市の親子の方々と交流を深めることができました。

喫日協会のみなさんにお世話になり、1日ホームステイをさせていただきました。



旅の締めくくりとして、日本大使公邸において、レセプション「日本文化のタベ」が行われ、今回の旅でお世話になった方、喫日協会のみなさん約70名が参加されました。日・オーストリアの合唱の交換、折り紙実習、剣玉・コマなど日本の遊びの紹介を通して、みなさんと有意義な時を過ごすことができました。

この旅で子供達はさまざまなことを学びました。ウィーン市では、森や水を大切に守り活用していること、環境のことを考えた都市であること、温暖化や外来種やイノシシなど日本と同じ問題があること。そして子供達がこれから出来ると感じたことは、達目洞の自然を守っていくこと、環境のことを考えながら生活すること、世界中のことを意識しながら考えることでした。

「ウィーン森と水の旅」では貴重な経験をさせていただきました。田中前大使をはじめ大使館のみなさんには大変お世話になりました。ありがとうございました。